【社会科教育法Ⅲ】　第２回課題の解答（第５講用）

問１

横山　遥

①　C（時代・地域解釈教授型）

②　「農業」を軸にヨーロッパの農業の特色が理解できる授業が展開されているから。気候（乾燥している地域ではオリーブやブドウ、てんさいは北海道で作られるからヨーロッパの中でも寒い地域、アルプスの季節を利用した移牧など）や地形（アルプスには山があり、その高低差を利用した移牧など）や人々の暮らし（人間と家畜の関係、フランスではワインが飲料水としてメジャーなど）などの特色がわかる。このように混合農業、地中海式農業、酪農と区切られてはいるが、それらからヨーロッパの普遍的な知識がわかる。さらにその農業の実態をふまえ、EC とアメリカの関係を考えさせようとしていた。授業モデルでたとえるとすると、箱が農業、だんご３つそれぞれの串が混合農業・地中海式農業、酪農である。

A ではない理由：A のスタイルで授業をするとすれば、「ヨーロッパ」という大きなテーマで授業展開がされ、そのなかで「気候」「農業」「工業」などの事実をひとつひとつ述べられるはずである。しかし，今回は「農業」をテーマに包括的にとらえ、混合農業・地中海式農業・酪農の特色がわかる授業になっているため。

B ではない理由：「米騒動」のように具体的事例ではなく、「米騒動」の背景には政治、経済、人々の生活、文化といった別の視点から見ていた。今回の授業も一見、「農業」を背景にさまざまな農業を見ているようではあるが、別の事象ではなく、すべて「農業」という共通なテーマに沿っているから。花房　瞳

花房　瞳

①　A

②　教師は、「西ヨーロッパ」を題材としており、指導計画から第 1 次で西ヨーロッパの特色、第 2 次で西ヨーロッパと他国とのつながり、第 3 次で西ヨーロッパの工業、第 4 次で西ヨーロッパの農業（本時）、第 5 次で西ヨーロッパの人々の文化を教えようとしている。また、授業が教科書の左上に記載されている順に展開されているのがわかる。板書では、教科書の太字の単語を漏れがないように抜き出し、教科書に記載されている順に用語、その意味を子どもに教え、大事、覚えてほしいということを授業終了の際に伝えていた。

　教師は、教科書を主に教えており、書いてあることを詳しく解説し、重要な用語を子どもに覚えさせる傾向がある。しかし、一方的に教師が教えるにではなく、子どもたち自身で考えさせる場面もあった。さらに、雑談、ジョーク、パフォーマンスを行うことにより、子どもに興味を持たせるよう工夫していた。あまり時間がなかったため、深入りしておらず、教科書の内容を広く浅く教えていた。

　よって、私はこの授業は、A の授業類型にあてはまると考える。

問２

安永早紀

①・授業の導入部分でヨーロッパの人が何を食べているか？という問いに対する生徒の答えに応じて実物のフランスパンとワインを出した。

・ヨーロッパで行われている農業の種類を生徒に資料集を使って探させた。また、資料集からの気づきを発表させた。

・それぞれの農業で生産される物に関連させた雑談をした。(地中海式農業はフランスでみられ、それではブドウが作られている。ブドウからはワインを製造することができる。それでは、フランス人は年間でどれほどのワインを飲んでいるか?)

・授業のまとめとなる部分を班で話し合わせ、発表させた。

・授業が終わる直前に板書の最も重要な部分を指し示した。

②　授業を動と静の 2 つに分けて考えると、動の部分（主に質疑）では生徒の発言が活発となり，教室全体の雰囲気も盛り上がる。静の部分（主に板書中・後）では教室全体が静まり返る。先生の問いに対してもあまり意見が上がらない。ここで、生徒に何か作業を与えたり、少し脱線をすることによって静から動への移行を速やかにする。動の部分でも生徒の集中力が途切れるのを防ぐために授業の内容に関連させた雑談をする。

　グループワークは大人数の前ではあまり意見を言えない生徒でも、少人数の中で自分の考えを伝えることができ多くの生徒の意見を聞くことが出来る効果がある。また、何人かの意見を持ち寄ることで 1 人では生み出すことのできない新たな答えを出すことが出来る。

後藤麻菜美

①　ワザの具体的な事例

【導入】・机の下からフランスパンやワインを出す（パフォーマンス）

【展開】・黒板に板書しノートをとらせる（ワザ）

・教科書/資料集を多用し，生徒に自ら調べさせ発言させる（ワザ）

・ワインをフランス人が年間どれくらい飲むのか雑談を入れる（雑談/ジョーク）

②　それに教師が頼る理由

・実物資料を見せる理由は、生徒をワクワクさせ関心をひき興味を持たせる為である。そして出来るだけ多くの生徒に発言させて教室全体の雰囲気を盛り上げるのだ。また、話を聞く際に生徒がイメージしやすくなる、生徒の目線を前に向けさせることができる等の利点もある。

・板書しノートをとらせる理由は、静かな雰囲気に変え授業に集中させる為である。

・生徒自らに調べ学習をさせる理由は、自ら気付かせ考えさせる為である。

・雑談・ジョークをする理由は、ワインについてイメージをふくらませ興味、関心をひく為である。